



広島大学大学院保健学研究科 / 医学部保健学科
Health Sciences Major, Graduate School of Health Sciences
Institute of Health Sciences, Faculty of Medicine

広大保健学通信

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hsc/>



MENU

- 研究科長の挨拶 / 学科長の挨拶 2
- 保健学研究科の主な動き / 各専攻の紹介 3
- 教員の紹介 4~5
- 研究室紹介 / 院生紹介 6
- キャンパスライフ / 卒業生からのメッセージ / インフォメーション 7
- 保健学ジャーナル / キャンパススケジュール 8

創立20周年を迎えた広大相撲部。保健学科看護学専攻3年清水千恵さんは、部員の減少により廃部の危機に見舞われた相撲部を救った女子学生(中田由香)として描かれています。映画「ちゃんこ」(主演 須藤温子さん)は、10月公開予定。(後列右端が清水さん)



保健学研究科2年目を迎えて

保健学研究科研究科長 村上恒二

保健学研究科設置へ向けた熱い思いと具体的な作業に一区切りをつけて、平成16年4月に大学院講座化を行い保健学研究科は早くも2年目を迎えました。昨年度は大学院講座化と国立大学法人化後の1年目であり、二つの大きな改革の波の中で大きく揺れ動き、いろいろと解決すべき難問にも直面致しました。しかしながら、難問をむしろチャンスととらえた希望にみちた1年であったかと思えます。

大学院とは何か考えて見ますと、教育と研究を発展させるために不可欠な組織であり、平成8年に修士課程を設置、平成10年に博士課程の設置と順調にスタートし、優秀な学生を受け入れ、高度専門職業人あるいは教育・研究者を社会に送り出しそれなりの社会的役割をはたしてまいりました。しかしながら、現代は先端医療社会で働く医療スタッフ・教育研究者が求められ、国際化に伴ってより広い視野を持った国際的研究者の養成と国際貢献が求められています。また、近年の疾病構造の変化と超少子高齢社会の到来による保健・医療に対するニーズの多様化により、全人的保健・医療・福祉を担うスタッフおよび研究者の養成が急務とされています。この様な状況において、わたしたちは社会に貢献できる人材育成の高度専門機関として新しく保健学研究科として生まれ変わったのがまさに昨年度の大学院講座化であったわけです。保健学研究科がこれからの日本の保健・医療のあり方を発信してゆくためには、優れた医療人や教育・研究者を養成することが不可欠であり、このことが日本全体の利益につながるものと思いたいです。我々の責務は学生諸君が持ついいところ、いい目を目覚めさせ、そして高い知識と技を教授して、彼らがみずからの思考により、新たな課題に挑戦していくように導いていくことだと思えます。

世の中の動きは大変速く「変化しないことは後退と同じである」と言われる時代にあって、「我が友よ 冒険者よ 旅立つ人に栄光あれ Be ambitious！」を保健学研究科への応援歌として、希望に満ちた学生諸君と将来への夢を語りたいためでもあります。



保健学科のさらなる充実に向けて

保健学科長 田中義人

広島大学医学部保健学科は、平成4年4月に4年制の大学として発足し、今年で14年目になります。この14年間に入学した学生数は1,909名で、今年の3月に第10期生が卒業しました。卒業生は合計1,308名で、それぞれ保健師、助産師、看護師、養護教諭、理学療法士、作業療法士として現場で活躍し、あるいは大学院に進学し、また後輩の教育に携わり、全国各地で活躍しています。本校のここまでの発展は、卒業生を中心とした同門会組織である「暁霞（あかつき）会」、また在校生の保護者の皆様による「広島大学保健学科後援会」のご尽力の賜物と、心から感謝するとともに、今後のますますの発展のために、保健学科構成員の皆様一人ひとりのさらなる自覚と努力をお願いいたします。

私は平成16年4月に保健学科長を拝命いたしました。初代の中西睦子学科長から、2代目の西亀正之先生、3代目の大成浄志先生、4代目の村上恒二先生の後をお引き受けして1年が経過します。この1年間に学科長として何か成果が上げられたのかと問われますと忸怩たるものがありますが、残りの1年が勝負だと思っております。

広島市南区霞1丁目の敷地内には、広島大学病院、医学部（医学科、総合薬学科、保健学科）、歯学部（歯学科、口腔保健学科）と、保健・医療のすべての施設がそろっています。他大学には見られないこの恵まれた環境で、保健・医療の現場での多くの職種との連携はもとより、学生の専門領域を越えた交流が行われています。霞地区で学ぶ学生の実習教育においても昨年から「チーム医療のための3学科合同教養ゼミ」「3学科混成グループによる早期体験実習」が始まり、今年は歯学部も含めた5学科合同での教養ゼミ、早期体験実習が行われます。保健・医療・福祉の各分野において専門化と細分化が進み、それぞれの分野において高度な専門知識と技術を有する専門職能人が必要とされるのは当然ですが、他の専門職と連携し情報交換のできる環境が学生時代から整っていることは大きなメリットです。このメリットを最大限に活用した学部教育の積み上げが、広島大学大学院保健学研究科ならびに医学部保健学科の発展につながっていく基盤だと思っております。

わが保健学科は、AO入試、編入試験を含めた入学試験の見直し、学部教育プログラムの見直し、臨地実習の見直しなど、多くの課題を抱えておりますが、「知識と技術を統合する豊かな人間性の涵養」を理念としてかけ、さらなる努力をいたす所存であります。

村上恒二保健学研究科長と二人三脚で頑張っていきますので、皆様方のますますのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

広島大学大学院 保健学研究科 看板掲げ式



平成16年4月1日(木)、大学院講座化により新しく生まれ変わった保健学研究科の看板掲げ式が挙行されました。看板は、牟田泰三学長の手跡を楯の一枚板に彫ったもので、今後の保健学研究科の発展を予告するような、勢いのあるりっぱなものです。除幕式に続き、広仁会館で、ささやかな祝賀会が催されました。

保健学研究科第1回国際シンポジウム



平成16年10月22日、大学院大学として、優れた保健領域の実践家を輩出するため、現在行われている大学院での教育モデルを学び、課題を検討することを目的として、国際シンポジウムが開催されました。保健学における専門職大学院の展望というテーマの下に、Anne W. Wojnerテキサス大学医学部助教授が米国での大学院教育について、基調講演を行いました。その後、保健学領域における大学院教育の展望や課題についてシンポジウムが行われ、上級実践家の育成について議論が交わされました。

平成16年度卒業式



平成16年度広島大学学位記授与式が3月21日(日)11時より東広島運動公園体育館にて、14時より保健学科・保健学研究科修士対象の式が医学部第5講義室にて行われました。看護学62名、理学療法36名、作業療法学28名、大学院博士課程前期47名、後期11名が学び舎を巣立ち、羽ばたいていきました。

カンボジア復興支援に係る 専門調査



平成15年3月に策定された「ひろしま平和貢献構想」に基づき、教育・保健医療分野における専門家等がカンボジア・シェムリアップ州の関係者と活動を共にしながら詳細調査を実施し、今後の具体的な支援策のあり方について検討を行いました。保健学研究科からは、小林敏生教授(健康開発科学)と保健学科学学生河田佐登美さんが保健医療の専門調査(平成16年9月26日～10月9日)に関わり、保健センターの診療状況や住民を対象とした健康状態に関するアンケート調査を実施しました。

広島大学フェア2005 in 北京



中国北京市の首都師範大学において広島大学フェア2005 in 北京(3月25日、26日)が開催されました。本フェアは、両大学の学術・学生交流を活性化し、日中間の産学官技術交流を推進することを目的として行われ、元文部大臣、有馬朗人先生の基調講演、村上研究科長を含めた本学大学院11研究科長による各研究科紹介、研究成果紹介出展(27ブース)、首都師範大学の研究成果出展(20ブース)、日中両国からの企業による出展(40ブース)、留学生相談などが行われました。首都師範大学の学生をはじめ中国の企業関係者が多数訪れ、盛会のうちに閉会しました。

第1回 広島保健学学会学術集会



広島大学大学院保健学研究科では、平成16年度に広島保健学学会を立ち上げ、平成16年10月24日、第1回の保健学学会学術集会を村上恒二学術大会長のもと「保健学研究の現在と未来」メインテーマとして開催しました。特別講演は、青森県立保健大学学長の新道幸恵先生による「看護学における教育・研究の視座」で未来への示唆にとんだお話を聞くことができました。また、本学の教員による専門職それぞれの特徴を生かした活動に基づく講演、研究中のテーマについての発表を行い、参加者は175名を得ました。活発なディスカッションが行われ、本研究科のこれからの活動や課題を示唆する有意義な会となりました。

平成17年度 入学式



平成17年度広島大学入学式が4月3日(日)に東広島運動公園体育館にて行われました。入学者数は合計3824名、そのうち保健学科は看護学64名、理学療法35名、作業療法学31名、大学院82名でした。牟田学長から国際的に活躍する人材となることを期待する旨のお話があり、新入生は夢に胸を膨らませていました。

看護学専攻の紹介

専攻長 森山美知子

看護学専攻では、学部教育において、看護師国家試験受験資格、保健師国家試験受験資格だけでなく、選択科目を履修することによって助産師国家試験受験資格、養護教諭1種の免許を得ることができます。また、海外での学習や体験もできるよう、メリーランド大学ポルティモア校看護学部とテキサス大学ヒューストン校メディカルセンター看護学部との学部間協定に則った交流授業による単位互換や現地での研修等の準備を進めています。調査研究を通じて、カンボジアなど、アジアの国々との交流もあります。さらに、本学は修士(看護学)、博士(看護学)が取得できる、全国でも数少ない大学院大学でもありますから、看護をグローバルに、より深く学びたい人を生涯に渡ってサポートすることが可能です。

理学療法学専攻の紹介

専攻長 新小田幸一

理学療法学専攻では、障害の回復・社会復帰のための運動療法を主体とするアプローチに必要な基礎理論と実践に関する科目を学習します。教室内だけでなく、実習をとおして技術・技能を磨き、医療人のあり方を併せて学びます。加えて保健・医療・福祉の一翼を担う理学療法の発展のための授業態勢と卒業研究指導法が組まれています。

各専攻の紹介

作業療法学専攻の紹介

専攻長 山勝 裕久

作業療法は実践の学問です。学内では基本的な知識・技術を習得します。臨床実習では学内で学んだことを生かし、統合する力を身につけます。併せて医療人として必要な技能・態度を学びます。学内学習から臨床実習へスムーズに入れるように、作業療法学専攻ではOSCE(Objective Structured Clinical Examination:客観的臨床能力試験)の導入を検討しています。これにより学生がつまづいているところを客観的に判断でき、実習に当たって前もって補強しなければならない点など、個別指導が可能になります。

教員の紹介

質問の内容

- ① 研究室名
- ② 主な担当授業科目（学部・大学院）
- ③ 専門分野
- ④ 自己紹介

(五十音順)



片岡 健
教授

- ① 成人健康学
- ② 成人疾病論、成熟期健康学特講
- ③ がん（特に乳癌）の基礎的・臨床的研究、術後合併症の評価と予防
- ④ 周手術期患者および癌患者を対象とした基礎・臨床研究や感染予防、創傷治療に関する研究を行い、得られた結果をできるだけ多く臨床に還元して行きたい。



井上 正規
教授

- ① 老年期健康学
- ② 臨床薬理学、老年期疾病論、老年期健康学特論
- ③ 上部消化管疾患の病態と治療
- ④ 全人的観点にたった高齢者医療、加齢と消化管生理の追求



小野 ミツ
教授

- ① 地域・在宅看護開発学
- ② 地域看護診断論、産業看護学、ケースマネジメント演習
- ③ 地域看護学
- ④ 地域で生活する人々の健康の保持・増進、疾病予防を目指した地域看護活動、チームケア、高齢者虐待防止について探究しています。



小林 敏生
教授

- ① 健康開発科学
- ② 健康管理学、環境生態学、健康開発科学
- ③ 産業現場のストレス対策とヘルスマネジメント、国際保健医療協力、生活習慣病の疫学、地域保健・学校保健・産業保健の保健連携
- ④ 人を取り巻くさまざまな環境と人の健康の関係について興味を持って幅広く活動しています。



竹中 和子
講師

- ① 発達期健康学
- ② 小児看護学概論、小児看護方法演習
- ③ 小児看護学・乳幼児心理学
- ④ 子どもたちの健やかな成長・発達と幸せを探究していききたいと思います。



田中 義人
教授

- ① 発達期健康学
- ② 人間発達学、小児生活援助論、小児疾病論、発達障害学
- ③ 小児保健、母子保健
- ④ 子どもとその家族の健康に関することのすべてを扱っています。



津島ひろ江
教授

- ① 地域・学校看護開発学
- ② (学部)学校看護学、養護実習(大学院)地域・学校看護方法学
- ③ 思春期健康教育、養護教諭の職務研究
- ④ 心身に障害をもつ子どもの地域や学校生活のQOLを高めるための研究やボランティアを行っています。



梯 正之
教授

- ① 健康情報学
- ② 疫学、応用統計学、保健政策論、健康情報学
- ③ 集団の健康データの分析・シミュレーション
- ④ データから真実を読みとる力をみがきます。



中込さと子
助教授

- ① 周産期看護開発学
- ② 学部：母性看護方法演習、助産診断学、助産方法論、母性看護学実習、助産学実習、卒業研究
大学院：質的研究法特論、(周産期看護方法学特論、周産期看護方法学演習、周産期看護方法学特別研究)
- ③ 母性看護学、助産学、遠伝看護学
- ④ ぜひ、広島のみで、皆さんと一緒に臨床・研究活動をしたいと思っています。



藤田比左子
講師

- ① 基礎看護開発学
- ② 看護技術学・基礎演習及び応用演習、基礎看護学実習、看護教育学概説、基礎看護方法学特論、基礎看護技術開発学特講
- ③ 基礎看護学、看護情報学、健康教育
- ④ 情報を看護や教育にもっと活用できるような方法論を追究したいと思います。



宮腰由紀子
教授

- ① 基礎看護開発学
- ② (学部)看護実践学原論、看護診断方法論演習、基礎看護学実習、看護哲学と倫理、卒業研究、教養ゼミ、(看護技術学・基礎演習、看護技術学・応用演習にも参加)(大学院)保健学研究法特論、基礎看護方法学特論、基礎看護方法学特別研究、基礎看護方法学特別研究、基礎看護技術開発学特講、基礎看護技術開発学特講演習、看護開発科学特別研究
- ③ 基礎看護学
- ④ 基礎看護学は、適切な看護を効果的に提供できる優しさや厳しさを備えた看護職が育つ上で、基盤となる領域の一つです。その基盤を強化するために地道な努力を積み重ねています。



宮下 美香
講師

- ① 成人看護開発学
- ② 成人臨床看護学演習
- ③ がん看護学
- ④ がん患者さんのQOLを高めるべく、身体・精神・社会・スピリチュアルといった様々な側面からの介入を試みたいと思っています。特に、乳がん患者さんのソーシャル・サポート研究を専門領域としています。



森山美知子
教授

- ① 成人看護開発学
- ② 成人看護系全体
- ③ 医療システム、アウトカムマネジメント、疾病管理、家族看護、ナースィングケースマネジメント
- ④ 医療の標準化、アウトカムの向上に向けた介入研究に興味があります。現在、3病院とクリニックで看護師、栄養士による慢性疾患療養外来をしています、次は地域で事業展開する計画です。



山岸まなほ
講師

- ① 健康開発科学
- ② 看護管理学概論、看護技術学
- ③ 看護管理学。看護師のストレス軽減対策、看護師のキャリア開発、看護ケアの質評価方法の検討
- ④ 看護師が楽しく働き続けていけるシステムづくりを目標としています。



横尾 京子
教授

- ① 周産期看護開発学
- ② 母性看護学概論、助産管理学、周産期看護学特論等
- ③ 母性看護学・助産学
- ④ 言葉で自己表現できない新生児のニーズを理解するために生理学的、行動学的データの文脈的解析を行っています。特に痛み刺激や鎮痛法に対する反応に焦点を合わせて研究をしています。

心身機能生活制御科学講座

理学療法学専攻



稲水 惇
教授

- 1 スポーツ医科学
- 2 リハビリテーション内科学、内部障害リハビリテーション学、スポーツ医学・他(学部)、健康・スポーツ科学特論、健康・スポーツ科学特別研究・他(大学院)
- 3 内科学、スポーツ医学
- 4 運動・スポーツを通しての健康づくりを目指しています。



浦邊 幸夫
教授

- 1 スポーツリハビリテーション学
- 2 スポーツリハビリテーション学特論、スポーツ外傷理学療法学、他
- 3 膝関節外傷予防を含めた予防的な視点にたった研究、健康増進に関する研究
- 4 スポーツ選手が良い環境でスポーツをできるように様々な研究活動、地域活動を行っています



川口浩太郎
助教授

- 1 スポーツ医科学
- 2 運動系理学療法学・実習(学部)、健康・スポーツ医科学特論(大学院)
- 3 徒手の理学療法、運動療法、運動生理学
- 4 あくまでも「臨床」にこだわり、徒手の理学療法や運動がヒトの体を与える変化について科学的視点で捉えることを目指しています。



川真田聖一
教授

- 1 生体構造学
- 2 人体構造学、人体構造学実習など
- 3 運動器の解剖学・顕微鏡解剖学、電顕解剖学
- 4 肉眼からミクロのレベルまで、生体の造形には構造と不可分の巧妙なしくみがあります。美しい顕微鏡標本を観察しながら、おもに運動器の謎を探っています。



新小田幸一
教授

- 1 生体運動・動作解析学
- 2 学部：身体運動学、臨床運動学
大学院：生体運動・動作解析学特講
- 3 バイオメカニクス
- 4 人の運動・動作をバイオメカニクスの観点から研究しています。得られた結果を新しい治療手技の開発、障害者や高齢者の健康増進に繋げています。



飛松 好子
教授

- 1 適応生活医科学
- 2 リハビリテーション概論 義肢装具学 リハビリテーション神経内科 リハビリテーション診断学
- 3 運動器リハビリテーション医学
- 4 菜食主義者 趣味は山登り、岩登り、ファンタジー読書など。身体障害の生活構造へ及ぼす影響を明らかにし、そこから治療をたらえ返したいと思ひます。未だになぜ、どうしてという疑問符が頭の中にいっぱいです。



藤村 昌彦
講師

- 1 生体環境適応科学
- 2 地域理学療法学、生体環境適応科学
- 3 高齢者の理学療法
- 4 高齢者が健やかに暮らせる生活環境について探索したいと考えています。



宮下 浩二
講師

- 1 スポーツリハビリテーション学
- 2 スポーツ外傷理学療法学、物理療法学、生活技術学、他
- 3 肩関節を中心としたスポーツリハビリテーション
- 4 肩関節や体幹などのスポーツ外傷の発生要因について、関節運動学、スポーツ動作学から分析することを研究のテーマとしています。



弓削 類
教授

- 1 生体環境適応科学
- 2 (学部)基礎理学療法学、成人神経系理学療法学、等(大学院)生体環境適応科学特論、生体環境適応科学特別演習、等
- 3 分子細胞生物学、再生医学
- 4 中枢神経障害の理学療法効果、物理療法的環境下の生体反応、宇宙飛行による筋・骨萎縮のメカニズム、軟骨、神経等の再生に関する研究を行っています。共に研究をする人を歓迎します。

作業療法学専攻



岡村 仁
教授

- 1 精神機能制御科学
- 2 リハビリテーション精神医学総論・各論、精神機能制御 科学特論
- 3 精神医学
- 4 精神的な側面からのQOL向上を目指し、人がよりよい生活を送ることができるようなアプローチを教育、研究、臨床を通して行っていきたくと思っています。



清水 一
教授

- 1 作業機能制御科学
- 2 日常生活活動学、研究法、作業技術学、調査研究法特論
- 3 作業療法学、活動分析、作業所の科学、高次脳機能障害
- 4 「作業」の「治療力」や「適応促進力」を科学し、作業療法の理論と方法を開発し有効性を実証してこの学問を共に推進したい。



Johnson Norma Joan
(ジョンソンノーマジョーン)
講師

- 1 精神機能制御科学
- 2 保健英語 地域生活学 余暇関連活動学演習
精神障害作業療法学 精神障害作業療法学演習Ⅰ・Ⅱ
基礎臨床実習Ⅱ・Ⅲ 職業倫理・職場管理
精神機能制御科学特論
- 3 精神医学の作業療法、老人医学、コミュニティケア、作業療法学教育、組織の発展に関する作業療法
- 4 すべての人々の生活の質の向上、増進のために作業に関する研究を行っています。



藤原 瑞穂
講師

- 1 作業行動探索科学
- 2 身体障害作業療法学、老年期障害作業療法学など
- 3 作業療法学
- 4 高齢障害者の生活を再建するための作業療法プログラムの作成と評価の開発、高齢障害者の学習ニーズと学習環境、作業療法教育をテーマに取り組んでいます。



松川 寛二
教授

- 1 生理機能情報科学
- 2 生理機能学Ⅰ、生理機能学Ⅱ、生理機能学 特論、生理機能学実習、基礎医学実習、教養ゼミ
大学院：生理機能情報科学特論、生理機能情報科学特別演習、生理機能情報科学特講、生理機能情報科学特講演習
- 3 生理機能学、心臓・循環生理学、運動生理学、自律神経生理学
- 4 人体が持つとても複雑かつ巧妙な仕組み(生理機能)をさまざまな臓器・組織群から成る生体システムとしての側面から調べその統合機構としての脳・自律神経系の役割を解明することをLife work としています。特に、日常活動時にみられる心臓・循環系調節メカニズムを一連動・感覚機能との協調に重点を置いて一精力的に研究しておりリハビリテーション臨床へ応用を目指しています。



宮口 英樹
教授

- 1 作業行動探索科学
- 2 作業療法概論、作業療法学理論
- 3 身体障害の作業療法
- 4 作業を通じた人間理解をベースとして、人の治療能力や基本的欲求、行動などの側面を探索したいと思っています。



村上 恒二
教授

- 1 運動制御解析科学
- 2 運動器障害リハビリテーション学、運動制御解析科学特論
- 3 上肢のスポーツ障害(治療とリハビリテーション)
- 4 座右の銘は「少欲知足、和顔愛語、感恩奉仕」です。釈尊の教え「過去は忘れてこたわらず、未来を妄想しないで、今を一生懸命生きること」が理想です。



山勝 裕久
教授

- 1 身体・生活機能制御科学
- 2 作業応用学総論、仕事関連活動学演習
- 3 身体障害作業療法
- 4 作業が身体に及ぼす影響について、科学的に検証したいと思っています。目指すは科学的作業療法。様々な背景を持った人たちが作業療法の門戸を叩いてくれるのを待っています。



山崎 郁雄
講師

- 1 作業機能制御科学
- 2 身体障害作業療法学
- 3 地域生活援助における作業療法
- 4 作業や作業療法が有効と思われる場におけるサービス提供を模索していきたくと思っています

研究室紹介 (各研究室を順次紹介していきます)

周産期看護開発学 (横尾研究室)

私たちの研究室では、妊娠、出産をめぐる健康上の課題をもつ女性やカップル、家族、および新生児の看護について教育・研究・実践活動を行っています。

学部教育では、PBL(Problem Based Learning)を用い、学生が主体的に課題を見出し、解決する能力を高めていくことができるよう、また、その過程を通して母性看護学、助産看護学の基礎が学べるよう取り組んでいます。

研究活動では、大学病院や県立病院、訪問看護ステーション、全国のNICU施設などと連携し、臨床に役立つ研究を行っています。例えば、新生児の鎮痛法の開発、NICU看護の標準化、遺伝性疾患をもつ女性の体験の分析、助産学教育カリキュラム開発など。

また、遺伝子診療部でのカウンセリング、不妊の電話相談、NICU看護に関するコンサルテーションなど実践活動も積極的に行っています。



精神機能制御科学 (岡村研究室)

対象者のQOLを維持・向上させるための、特に心理・社会的側面を重視したリハビリテーション法の確立を目指しています。具体的には、

- 1) がん/終末期リハビリテーション(cancer rehabilitation)
- 2) 高齢者(認知症を含む)に対するリハビリテーション
- 3) 精神障害者に対するリハビリテーション

のいずれかの領域について、各々がテーマを決めて研究に取り組んでいます。

研究室のメンバーは、医師、作業療法士、理学療法士、看護師といったさまざまな職種からなり、さらに外国人教員もいるというユニークな構成となっており、日本語と英語が入り乱れた、またさまざまな立場からのディスカッションが繰り広げられています。写真はある日のゼミの様子を写したものです。興味のある方は、是非一度、研究室のホームページ

(<http://home.hiroshima-u.ac.jp/psrlab/>) を覗いてみてください。



院生紹介 (博士課程(前期・後期)学生の研究テーマや抱負等を紹介していきます)

心身機能生活制御科学講座
スポーツリハビリテーション学
(浦邊研究室)

博士課程前期1年

滝原 幸雄

Pioneerを目指して



私は現在、腰背部筋に筋疲労が起きた時の腰椎アライメントの変化に関する研究を行っています。腰に関する文献は古くから存在しますが、未だ多くの問題が未解決のままです。従来では腰椎アライメントの計測は困難であり解決するのは不可能でしたが、私たちは新しい機器を使用しており、腰椎アライメントに関する研究のpioneerになるべく日々研究を行っています。また私たちの研究室はスポーツリハビリテーション学研究室の名のとおりスポーツ選手のリハビリテーションにも力を入れており、私自身トレーナー活動にも従事しています。今後も研究、トレーナー活動、あるいは他の様々な活動を通し、多くの経験を積んでいきたいと考えています。

看護開発科学講座
健康開発科学
(小林研究室)

博士課程後期1年

友川 幸

「国際保健」が熱い!



"今、広島大学保健学研究科の「国際保健」が熱い!"
私の博士課程での研究テーマは、アフリカやアジアの開発途上国における小学生の健康問題(下痢症や他の感染症)の改善を目的とした、保健活動の実践および保健衛生教材の開発です。開発途上国の健康問題に取り組む「国際保健」の研究は、"現場"に出向いて、自分の心と体と頭で、「国際」を感じることから始まります。刻一刻と変化する国際社会に熱い情熱と関心を抱くとともに、フィールドワーカーとして、異文化に溶け込む柔軟性とコミュニケーション能力、さらに国際協力活動を一歩離れた所から、客観的に分析、評価できる冷静さが求められます。研究生活はまだ、スタートしたばかりですが、「国際保健」の研究に取り組んでいる多くの仲間とともに、冷静と情熱の間にある「国際保健」の実践と研究を盛り上げていきたいと思っています。

看護学専攻 3年

清水 千恵

相撲部紹介



私たち広大相撲部は今年で創立20周年を迎えました。この20年間では部員が0名という時期も乗り越えてきました。この春には、前主将のセサル（教育）がメキシコに帰国し、部員3人となりましたが、新入生がなんと6人も入ってきました。現在、部員は主将：アントニオ（理）、副主将：諏訪（生生）、他7人になりました。5月に東京で行われた全国国公立大学大会では、ここ何年間勝つことがなかった団体戦で3勝することができました。また、新人戦では、ハーレー（総科）3位、木下（理）4位という好成績を収めることができました。10月には映画「ちゃんこ」も公開されるので、相撲部がもっともっと周囲の人々に身近なものとなってほしいと願い、日々稽古をつんでがんばっています。

卒業生からのメッセージ



広島大学大学院医学系研究科保健学専攻
博士課程後期 第一期修了生

山口 扶弥（旧姓 洲濱）

大学院在学中は、理学療法学、作業療法学、看護学の枠を超え、同期の仲間と切磋琢磨し研究活動に励んでいたことを懐かしく思います。5年間の大学院生活を修了し、今年で5年目を迎え、今では2児の母となり研究、教育、育児に奮闘しています。

昨年、大学院在学中に取り組んだ研究課題に対し、日本性感染症学会学術奨励賞を受賞しました。研究の方向性に関して、思い悩むこともありましたが、自分の研究課題に自信を持ち、根気強く、自分の信念を貫く粘り強さが大切であると改めて実感しました。

広島大学大学院で学んだことを誇りに思い、理論は学校で、実践は家庭での道を歩んでいます。そして、この両立の中に、看護に生きる姿を求めていると思います。



広島大学病院
平成16年度卒（9期生）

田中 文香

作業療法士として広島大学病院に勤めて2年目になります。リハビリテーション部門は、作業療法士4名のほか、医師3名、看護師1名、理学療法士7名です。広島大学保健学科の卒業生は5名います。

私は学生時代の長期実習をこのリハビリ部でお世話になり、スタッフの温かい雰囲気に惹かれ就職を希望しました。しかし一年目から、皆と同じように診療に参加するため、技術的にもその責任の重さにも戸惑いました。急性期病院で、入院日数が短くなる中で、病棟での日常生活動作の練習、意識・注意力に対する介入なども行っています。また、予後が悪く身体機能が低下する方が何を必要とされているか、悩むことも多いです。

そんな中でも、陶芸や調理実習をしたり子供と遊んだりし、患者さんの笑顔と向き合いつつ、私の方が楽しんでいるのでは？と感じます。より患者さんの役に立てるよう努力の日々です。

インフォメーション

広島大学大学院保健学研究科 第2回国際シンポジウム

テーマ：日本におけるリハビリテーション医療の現状と問題点
会期：2005年10月21日（金）15:00-17:00
会場：保健学科棟203号室
参加費：未定

第2回広島保健学学会学術集会

テーマ：少子高齢社会における保健学の研究と実践
会期：2005年10月30日（日）
学会長：川真田聖一教授
招待講演：医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院 院長 浜村 明德 先生
会場：広島大学広仁会館
参加費：一般 1,000円、学生 無料

原著論文

1. Interferon 療法開始後 3 ヶ月までの C 型慢性肝炎患者の QOL と Self-efficacy
澤田佳代子, 宮腰由紀子, 井上正規, 高橋祥一59
2. 幼児期の喘息等呼吸器疾患の有病率と家庭内における生活環境との関連
高野政子, 目原陽子, 是松聖悟, 佐竹圭一郎, 田中義人67
3. ヘルスプロモーション理念を取り入れた産業保健活動が生活習慣病危険因子の変化に及ぼす影響
有吉浩美, 小笠原正志, 小林敏生74
4. Seasonal variations and effect of atmospheric temperature on the incidence of coronary heart disease in Hiroshima, Japan
Hongli Wang, Makoto Matsumura, Masayuki Kakehashi and Akira Eboshida. 82

広島大学大学院保健学研究科 第 1 回国際シンポジウム

1. 看護学における専門職大学院の展望
森山美知子90
2. カナダ, アメリカ合衆国における大学院での理学療法教育について
川口浩太郎94
3. The post-graduate situation in Argentina, South America
Nishiwaki, Gaston Ariel100
4. 米国における advanced practice のための大学院教育
Anne W. Wojner101

第 1 回広島保健学学会

1. 看護学における教育・研究の視座
新道幸恵 106

2005年度 キャンパススケジュール

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 9月1-2日 大学院保健学研究科(博士課程前期)入試 | 1月21-22日 大学センター入試 |
| 10月3日 後期授業開始 | 1月19日 第45回広島大学保健学集談会 |
| 10月20日 第42回広島大学保健学集談会 | 2月上旬 大学院保健学研究科(博士課程後期)入試 |
| 10月21日 大学院保健学研究科第2回国際シンポジウム | 2月10日 後期授業終了 |
| 10月30日 第2回広島保健学学会学術集会 | 2月16日 第46回広島大学保健学集談会 |
| 11月12-13日 霞祭 | 2月下旬 保健学科 一般選抜入試(前期日程) |
| 11月17日 第43回広島大学保健学集談会 | 3月中旬 保健学科 一般選抜入試(後期日程) |
| 12月1-2日 AO入試 | 3月16日 第47回広島大学保健学集談会 |
| 12月15日 第44回広島大学保健学集談会 | 3月23日 保健学科・保健学研究科 学位記授与式 |

編集後記

「ある人が笑うのを手伝うことにより、あなたはその人が生きるのを手伝っている」イギリスの医師ロバート・ホールデンの言葉です。保健学研究科・保健学科における質の高い教育や研究、社会活動の提供を通じて患者や家族、学生、教職員がお互いに笑顔でいられるようにありたいものです。記念すべき創刊号の表紙は「すもう」にしました。文化や性など多様な価値観をしっかりと踏みしめた広大保健学独自の広報誌づくりを目指したいと思っておりますのでご期待ください。

(編集長 宮口英樹)

発行／広島大学大学院保健学研究科広報委員会

〒734-8551 広島市南区霞1-2-3 TEL. 082-257-5340(代) FAX.082-257-5344